

「ヒステリー」性失聲症ニ就テ

岡山醫學士 登坂清起

「ヒステリー」ニ因スル失聲症ハ、從來考ヘラレシガ如クニ稀有ナルモノニ非ズシテ、我國ニ於テモ既ニ之ニ關スル報告乏シカラズ。殊ニ又過般ノ歐洲大戰ニ際シテハ、驚愕、恐怖等ノ精神的感動ニ因リ、兵士間ニ此官能の失聲症ヲ來セシコト尠カラザリシガ如シ。余ハ曩ニ岡山縣病院耳鼻咽喉科ニ於テ田中教授ノ下ニ勤務中、大正九年度内ニ於テ、定型的ナル本症ノ四例ニ遭遇シ、何レモ簡單ナル暗示療法ニヨリテ之ヲ治愈セシメ得タリ。而シテ如斯ハ單ニ耳鼻咽喉科専門家ノミナラズ、又一般醫家諸賢ニ於テモ亦多少參考ノ資タルヲ信ズルガ故ニ、以下此等症例ノ概畧ヲ報告スル所アラントス。

症例一

富○オ○ 三十七歲 質商 (大正九年一月十三日診療)

遺傳的關係。 父方及ビ母方ノ祖父母ハ共ニ高年ニテ死亡セリト云フ外詳シク知ルコトヲ得ズ。父ハ四十三歲ニテワイル氏病ニ倒レタリト。母ハ今年六十歲ニシテ健。夫ハ五十歲健、花柳病ナシ。弟二人健。患者ハ生來健、昨年腎臟炎ヲ病メル外著患ナシ。淋疾微毒ノ既往ナシ。第三回目ノ妊娠ハ三箇月ニテ中絶セリト云フ。月華初潮十六歲ノ春、以來順調十八歲ニテ結婚セリ。

現症、既往症。 昨年三月頃ヨリ時々喉頭部ニ癢痒感アリシガ、六月頃ヨリ大凡月ニ二回位突然失聲ヲ來シ、長キハ半日、短カキハ三時間位ニシテ、何等治療ヲ受クルコトナク又忽然トシテ正常ニ復スルヲ常トスト云フ。而シテコノ失聲症ハ精神過勞、身體疲勞後ニ來ル如ク月經ニ關係ナシト云フ。舊臘十二月三十一日下女ノ出産ノ爲メ心身ヲ過勞シタルニ、其ノ夜半突然失聲トナリ、ソノマ、午前二時頃寢ニ就キタリ。翌朝五時ニ起床セルニ全ク聲ハ

普通ノ如クナリシト云フ。然ルニ又今朝(一月十三日)食後隣家ニテ小兒ノ負傷セルヲ見タルニ、急ニ失聲症ヲ來セリトテ直チニ診ヲ乞フ。

現症。體格營養共ニ良、胸腹内臓ニ異狀ナク、瞳孔反射及ビ腱反射通常、耳、鼻、咽頭ニ異狀ナシ。談話ヲ試ミルニ僅ニ呬語シ得ルノミ。

喉頭鏡所見。發聲時聲門裂ニ紡錘形ノ間隙ヲ生ズ(内筋麻痺)呼吸時ニ於テハソノ運動ニ異狀ナシ、尙ホ失聲ヲ來サシムベキ炎症性症狀ナシ。

療法。直チニ治療ス可キ旨ノ暗示ヲ與ヘツ、喉頭鏡監視ノ下ニ喉頭内ニ五%ノ「コカイン」水ヲ塗布セルニ、直チニ發聲通常トナリ。且前記内筋麻痺ノ狀態モ亦消失セリ。患者ハ此忽然タル治療ヲ見テ喜々トシテ歸宅シ其後來訪セズ。

症例二

吉○チ○ 四十四歳 農婦 (大正九年九月十日診察)

遺傳的關係。父方ノ祖父ハ七十歳ニシテ卒中(?)ニテ倒レ、同祖母ハ老衰死ナリト、母方ノ祖父母ニツキテハ知ルコトヲ得ズ。父ハ七十一歳ニテ不明ノ疾患ニ倒レ、母ハ六十六歳ニテ卒中ニテ死セリ。生前共ニ酒ヲ好マズ。同胞ナシ。子女四人皆健在ナリ。

既往症。患者ハ生來健康ニシテ麻疹ヲ經過セル外熱性病ソノ他傳染性疾患ニ罹リタルコトナシ。二十八歳ニシテ初メテ月華開キ以來順調、便通ハ一日一行、早流産及ビ花柳病ノ既往ナシト云フ。

三年前ヨリ年ニ二回位全ク認ムベキ原因ナクシテ發聲障礙ヲ來シ、大抵毎日早朝ヨリ漸次夕刻ニ向ツテ増悪シ數日ニ互ル。而シテ何等治療ヲ受クルコトナクシテ自然ニ正常ニ復歸スト云フ。昨年三月下旬又認ムベキ原因ナクシテ、逐次發聲障礙ヲ來シ、始メノ内ハ多少消長アリシモ間モナク持續的トナリ七月十三日當科ヲ訪レ受療四日ノ後

聲音舊ニ復セリト。然ルニ又三日前ヨリ何等認ム可キ原因無クシテ又突然聲音ヲ發シ得ザルニ至レリト。呼吸困難、嚥下障碍等ヲ訴ヘズ。

現症。骨格中等、營養狀態稍不良、皮膚粘膜稍蒼白、皮下脂肪發育不良、呼吸器、血行器竝ニ消化器系ニ異狀ヲ認メズ。瞳孔反射、腱反射共ニ通常、皮膚ノ知覺異狀浮腫等ナシ、耳、鼻、咽頭ニ異狀ナシ。談話ヲ試ミルニ唯微カニ呷クノミニシテ全ク聲音ヲ伴ハズ。

喉頭鏡所見。發聲時、聲門裂ハ其前三分ノ二ハ紡錘形ヲ呈シ、後方一小部ハ三角形ヲ示シ、内筋麻痺ニ横筋麻痺ト合併セルモノナルコトヲ知ル。而シテ呼吸時ニ於テハ速カニ正常ニ復ス。又試ミニ、反射的ニ咳嗽ヲ發セシムルニ音響ニ富ム。而シテ喉頭粘膜ニ充血、潰瘍、ソノ他炎症症狀ナシ。

療法。暗示的ニ日ヲ經ズシテ回復スル旨ヲ斷言シ、喉頭内ニ二%「クロールチンク」ノ塗布ヲ行ヒ、内服藥トシテ臭剝ヲ與ヘシニ、翌日來院セル際ニハ聲音回復著シク、四日目ニ至リ全ク普通ノ如ク發聲シ得ルニ至レリ。コノ日ニ於ケル喉頭鏡所見ハ、全ク正常ト異ルコトナシ。

症例三

片○ギ○ 三十一歳 女 聲樂者 (大正九年十月一日診察)

遺傳的關係ニ於テ認ムベキコトナシ。

既往症。生來健、著患ナシ、淋疾、微毒ノ既往ナシ、月華初潮十六歳、爾來順調、子女三人、早流産ナシ。

昨夕友人ヨリ蟹ノ饗應ヲ受ケタルニ、其後數分ニシテ他ノ友人ヨリ、曩ニ食セル蟹ノ汁ノ中ニハ、音聲ヲ惡クセシムル藥品ヲ混入セラレタルヲ告ゲラレ大ニ心配セルニ、約三十分ノ後ニ急ニ嘔聲トナレリトテ診ヲ乞フ。呼吸困難、嚥下困難ナシ。

現症。體格中等、營養可良、胸腹内臓ニ異常ヲ見ズ。皮膚ニ知覺異常無シ。瞳孔反射通常。膝蓋腱反射少シク

「登坂」―「ヒステリー」性失聲症ニ就テ

五九〇

亢進。耳、鼻、咽頭ニ異常無シ。聲音ヲ發セシムルニ、高度ニ嘶嘎シ、殆ド失聲症ニ近シ。

喉頭鏡所見。第一例ト同様ニ、發聲時ニ其聲門裂ハ紡錘形ノ間隙ヲ殘スモ、呼吸ニ際シ其運動ニ異常無シ。其他粘膜ニ發赤又ハ腫脹等ヲ見ズ。

療法。輕度ノ病變アルモ、治療ニヨリ直チニ回復ス可キヲ暗示的ニ宣言セル後、先ツ喉頭内ニ「コカイン、プロタルゴール」ノ塗布ヲ行ヒシ後、患者ヲシテ強ク吸氣ヲ行ハシメ、次ノ症例ニ於ケルガ如キ發聲練習ヲナサシメシニ、約三分ニシテ、嘶嘎著明ニ回復シ、翌朝來訪セル際ニハ全ク正常ニ復セリ。

症例四

黒〇フ〇 六十五歳 農婦 (大正九年十一月十九日診察)

遺傳的關係。認ムベキコトナシ。

既往症。生來至ツテ健康ニシテ嘗テ服藥セルコトナシ、花柳病ノ既往ナシ、約四十日前全ク認ムベキ原因ナク

シテ、急ニ嘶嘎ヲ生ジ漸次増悪シテ三週間許リ前ヨリ殆ド失聲症トナレリ、呼吸困難、嚥下痛、發熱等ナシ。

現症。體格中等、營養稍不良、肺、心及ビ腹部ニ異狀ナシ、瞳孔反射、腱反射通常、皮膚ノ知覺異狀等ナシ。

耳、鼻、咽頭ニ異狀ナシ。

喉頭鏡所見。左右聲帶ハ發赤腫脹ナク、呼吸時ソノ運動ニ變化ナシ、發聲セシムルニ聲門ハ紡錘形ノ間隙ヲ生ズ。

療法。先ヅ喉頭ニ二%ノ「クロールチンク」水ヲ塗布シテ患者ニ必ズ發聲出來得ルモノナリトノ暗示ヲ與ヘ、檢者ハ左右ノ指ヲ患者ノ甲状軟骨ノ兩側ニ當テテ、母音(即チ「ア」「イ」等ノ音)ヲ用ヒテ發聲練習ヲナサシメタリ、コノ法ニヨリテ、今迄全ク失聲症ナリシモノガ、僅カニ二分間ニシテ、小聲ナガラモ母音ノ發聲ヲナシ得ルニ至レリ、翌日來リ感謝シテ曰ク「昨夕ヨリ全ク通常ノ如ク發聲シ得ルニ至レリ」ト、コノ時喉頭ハ全ク正常ト異ル

摘 録。

以上四例ヲ通覽スルニ、何レニ於テモ是ガ「ヒステリー」性失聲症タルハ、各患者ノ病歴、喉頭内所見及暗示的療法ニヨリテ頓ニ正常ニ復セル等ヨリシテ明カニシテ、殊ニ第一及第二症例ニ於テハ既ニ如斯失聲症ノ發作ヲ過去ニ有シ、而モ之ガ容易ニ舊ニ復セルコト、殊ニ第一例ニ於テハ其發作ハ常ニ精神過勞後ニ現ハルル等ハ、容易ニ其疾患ノ「ヒステリー」性ノモノタルヲ推知セシムルニ足ル。且又第三例ニ於テモ同ジク急ニ精神ニ或衝動ヲ受ケ後間モ無ク其障礙ノ發來セルモノニシテ、是亦本症ノ「ヒステリー」性タルヲ思ハシム。而モ此等ハ何レモ既述セルガ如キ單純ナル療法ニヨリテ治癒セルモノナリ。第四例ニ在ツテハ病歴上ニ於テハ果シテ「ヒステリー」性ノモノナルヤ否ヤ疑ヒアリシト雖モ、三週以上ニ互リテ失聲症ヲ呈シ、而モ局所的變化ハ之ニ伴ハザルヨリシテ「ヒステリー」ヲ疑ヒ、主トシテ暗示的療法ヲ施シ、直チニ其回復ヲ見タルハ是亦「ヒステリー」性ヲ疑フ可クモアラズ。

次ニ此等「ヒステリー」性失聲症ニ際シテ、其喉頭内所見ハ概ネ閉鎖筋麻痺ノ状態ヲ示スハ從來ヨリ報告セラレタル所ニシテ、此處ニ報告セル四例ニ於テモ、其第一例ノ内筋麻痺ニ横筋麻痺ヲ合併セルノ他ハ凡テ内筋麻痺ノ像ヲ呈セリ。而シテ此等ノ官能障礙ノ状態ハ聲音ノ回復ト共ニ又正常ニ復セルモノナリ。

尙ホ四例共ニ女子ナルハ從來諸家ノ認メタル所ト同様ナリ。但シ本症ハ又男子ニモ來ルコトアルハ明カニシテ、殊ニ既述セルガ如ク歐洲戰爭ニ於テ所謂戰時失聲症トシテ兵士ニ發來セシコト尠カラザリシハ注意ス可シ。

療法トシテ、他ノ「ヒステリー」症ト同様ニ主トシテ暗示的療法ノ有效ナルハ既記四例ニ徴シテモ明カナリ。サレバ勿論患者ノ施術者ニ對スル信頼ノ如何ニヨリ其成績ニ大ナル影響アラン。ムツクハ戰時失聲症ノ療法トシテ喉頭内ニ一小球ヲ挿下スル時ハ其際患者ハ急ニ窒息セントスル恐怖ノ感覺ヨリ聲音反射ヲ促進セラレ、爲メニ其失聲症

「登坂」―「ヒステリー」性失聲症ニ就テ

五九二

ノ頓ニ消退スルヲ唱ヘタリ。蓋シ、失聲テフ陰性反射ニ對シ、陽性反射ヲ喚起セシムルノ一法タラン。發音練習モ亦タ效果アリ。要スルニ此等ノ療法ハ各症例ニ應ジ臨機策ヲ施サバ概ネ容易ニ其目的ヲ達スルヲ得可キハ既述第一例ノ如ク單ニ一回ノ喉頭内塗布ニヨリテ忽チ其障礙ノ消退セルヨリシテモ明ナラン。